



The 65th Republic Day インド 第65回共和国記念日

1950年1月26日、インドで憲法が公布されました。これを記念して、インドでは1月26日を「インド共和国記念日」として毎年盛大な祝賀パレードが繰り広げられます。昨年からは日本からも天皇、皇后両陛下がインドを訪問され、両国の信頼と友情の絆がさらに深まる1年となりました。日印の首脳も互いの国を行き来し、友好を深めています。急成長を遂げるインドは日系企業とのつながりも強く、今後もさらなるパートナーシップが期待されています。

駐日インド大使

デーパ・ゴパラン・ワドワ

Deepa Gopalan Wadhwa



第65回インド共和国記念日を迎えるにあたり、日本国の天皇皇后両陛下、日本政府、親愛なる日本国民の皆様にご挨拶申し上げます。また日本に在住するインド国民、インド系移民の皆様には、この重要な記念日に、私たちの比類なきアイデンティティの基礎を成す、インド憲法に掲げられた深遠な理想に立ち返るよう呼びかけたいと思います。

今年ニューデリーで行われる共和国記念日祝典には、安倍晋三首相閣下が主賓としてご参加なさいます。印日関係の歴史において特別な日となり、両国間の友情が歩んできた道のりにとっても記念すべき時となるでしょう。

インドが共和国となり、国民によって書かれた憲法が採用された1950年1月26日は、わが国の歴史において重要な節目となりました。以来60年余、インド共和国は大きな進歩を遂げてきました。今日インドは世界最大の民主国家であり、インド国民はこの偉業を誇りに思っています。発展途上世界において、インドのように民主主義の灯を断固として守り続けた国は他にほとんどありません。

民主国家インドは近年、グローバル化した世界において、包摂的な経済成長を生む増進場となっています。インド経済は世界的不況のあおりを受けながらも、それを跳ね返す力を持ち、既に回復の兆しを見せています。巨大な市場、若い人口構成比、高い技術力と安価な人件費

を兼ね備えた人的資源、起業精神文化といった国としての基礎力は、インドの成長物語を揺るぎのないものにしていきます。インド政府は、国内外の投資家にとってより好ましい環境を作るため、更なる改革を遂行しています。今年わが国では総選挙が行われますが、ほぼ7億2500万人に達する有権者が参加する壮大な参加型民主主義の実践となります。

インドの政治機構と経済は、日本に独自の補完性を提供しています。印日関係の歴史は文明的な親和性に根ざしており、両国は太古から続く素晴らしい二国間関係の遺産を、民主主義の強化、国民の繁栄、国際法に基づいた世界秩序の形成といった共通の願いで二国が固く結ばれた現在まで継承してきました。いま変貌しつつある世界においては、秩序と安定を確保する責任は主要民主国家に大々的に委ねられていますが、アジアにおいて最大の民主主義国インドと最も繁栄した民主主義国日本はより緊密に連携し、アジア、ひいては世界における平和と繁栄の確保に努める必要があります。

幸運なことに、インドと日本はいかなる争いに妨げられることもなく、良好な関係を享受してきました。印日関係は相互的な好意や尊敬に由来するものであり、このことは互いが助けを必要とする時、寛大な支援として示されます。私たちは、日本の政府と国民の皆様がインドの経済

開発、特に国の姿を大きく容容させるであろうインフラ開発プロジェクトのために提供して下さる支援に感謝しています。インドは現在、日本の政府開発援助の最大受益国となっています。日本からの融資は、テリー・ムンバイ産業大動脈(DMIC)、テリー・ムンバイ貨物専用鉄道(DFC)、そしてチェンナイ・バンガロール産業大動脈といった巨大インフラプロジェクトの実施を後押ししています。これらのプロジェクトは、人口のほぼ5分の1にあたる国民の暮らしに影響を及ぼします。

経済面に目を向けると、印日両国は2014年までに二国間貿易を250億ドル規模にし、投資を拡大する目標を掲げています。インド国内に支社や生産拠点を構える日本企業が増加している事実からもわかるように、日本の実業界ではインドに関する興味が増加してきています。日本経済が回復の兆しを見せる中、主要産業国としての日本の重要性はその輝きを失っていません。同時に、世界経済が新たな構造を表しつつある中、インドの重要性は世界中で認識されています。マンモハン・シン首相が日本を「自然で不可欠なパートナー」と呼んだのは、このような背景があるからです。

以前とは異なる世界の様相、インドで起きた変容、世界の多極化によって発生した課題や機会、グローバル化の台頭、および両国間の利益の取捨、補完性、相乗効果が広い分野で顕在化している現状を鑑みると、今こそ両国が築いてきた関係に新たな内容と更なるダイナミズムを加えるべき時であることは明らかです。

過去15年間、印日関係は、二国間関係の強化と拡張は相互的利益を生むという認識のもと推進されてきました。その契機となったのは、2006年、マンモハン・

シン、安倍晋三両首相によって署名・施行された21世紀における印日戦略的グローバルパートナーシップです。この戦略的グローバルパートナーシップの締結後、印日二国間関係はニューデリーと東京で交互に行われる年次首脳会談に導かれてきました。この首脳会談は、二国間関係に持続的な勢いを与え、将来に向けた方向性を決定する一助となっています。

昨年、天皇后両陛下のご訪印が実現し、印日関係は新たな高みに達しました。両陛下のご訪印は両国にとって歴史的かつ画期的な出来事であり、二国間関係が成熟と親密の新たな時代に入ったことを示しました。また、両陛下のご訪印は政治、経済の域を超えて両国の国民をより強く結び付ける契機となりました。

インド国民は日本との友情を重視しています。日本の友人の皆様と協力し、無限の可能性を持つ協働を実現したいのです。私たちは政治から戦略までを包含する二国間関係を築き、持続的かつ象徴的な経済的関与を確実に実行し、さらに最も重要な点として、両国の国民が互いを理解し、尊重し合うための橋をかけたかと願っています。

2014年は印日間の友情がさらに深化する年になると確信しています。今年インドでは総選挙が行われますが、印日関係はその結果に左右されることなく、今まで通り強化されていくでしょう。なぜなら、日本との政治的・経済的関係を強化する重要性に関しては超党派的な支持が寄せられているからです。私たちは平和と進歩、繁栄を求める両国の国民の願いを実現すべく、これからの日本の政府、企業、国民の皆様とより緊密に協力し、進んでいきたいと願っています。



インド大統領
プラナーブ・ムカジー
Pranab Mukherjee



インド首相
マンモハン・シン
Manmohan Singh

公益財団法人日印協会 代表理事・会長

森 喜朗

Yoshiro Mori

第65回インド共和国記念日に際し、公益財団法人日印協会代表理事・会長として、インド政府並びにインド国民の皆様からのお慶びを申し上げます。

天皇・皇后両陛下が、昨年11月末から12月初めにかけて、インド政府のお招きにより国賓としてインドをご訪問されたことで、日本とインドの両国関係が一層緊密さの度合いを増したことは、誠にうれしい限りです。

両陛下のインドご訪問は、皇太子・同妃時代にインドを訪れた時から数えて、50年以上経過しておりました。

両陛下のインドご訪問前の2013年5月には、マンモハン・シン首相ご夫妻が訪日されました。ご夫妻のご訪問は、発展を続ける二国間の緊密な関係を再確認する重要な里程碑の一つとなりました。日印協会は、ご夫妻のご訪日に際して、日印友好議員連盟並びに民間外交推進協会(FEC)との共催により、シン首相講演会を開催いたしました。この講演会では、日印関係に対

在日印度商工会議所東京代表

比良竜虎

Ryuko Hira



インド共和国記念日のお祝いを申し上げます。

在日印度商工会議所東京は、大正10(1921)年に設立された横浜印度商協会に始まり、93年間にわたって印日経済交流の促進に努めてまいりました。印日間の貿易は、136年前の明治11(1878)年から統計記録に残されております。平成に入ると、IT産業および人的資源のみならず、工業製品からインフラ整備まで、総合的な輸出を手掛けるようになりました。

するインド人の考え方と政策の方向性を日本国民に示すことを目的とされて

いました。講演会におけるシン首相の極めて前向きなメッセージは、300人にも上った多くの日本人の参加者により高く評価され、大成功を収めました。

私は、上述の事情を踏まえ、2014年をインドとの友好親善関係をさらに深化させる年とするため、最大限の努力をする決意しております。

安倍晋三首相は、1月26日に開催される第65回インド共和国記念日祝典に、主賓として招かれます。このような榮譽が日本の指導者に与えられるのは、初めてのことで

す。両国は、国際社会においても大量破壊兵器の拡散防止、感染症対策、国連安保理改革といった地球規模の問題などの多くの分野で協力しながら、国際社会に貢献しています。

最後に、共和国記念日という慶賀すべき機会に、偉大な両国民の幸福と国際社会全般の平和と繁栄を祈念いたします。

近年は、インド映画のヒットを受け、インド観光への関心も高まりを見せています。長い歴史と広い国土を有するインドには23の世界文化遺産と6の世界自然遺産があります。道路・港湾・空港の整備は急ピッチで進められ、今では気軽かつ快適にインド旅行を楽しめるようになりました。印日間の学問的、科学的、技術的交流は、著しい発展を続けています。輸出大国日本と12億の人口を抱える消費大国インドの組み合わせには、無限の可能性が秘められています。

私たち印僑を印日を結ぶかけ橋として、印日経済交流がますます活発になり、両国がその恩恵に恵まれ、さらに発展していくことを、心よりお祈り申し上げます。

インド共和国記念日をお祝い申し上げます

Incredible India

インド政府観光局

<http://www.incredibleindia.org/>



東京、大阪からインド直行

visit www.airindia.in | Follow us on



エア インディア

岡谷鋼機

岡谷鋼機株式会社

<http://www.okaya.co.jp/>

豊かな未来を、たしかな仕事でカタチにします。

住友商事

<http://www.sumitomocorp.co.jp>

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER

全日本空輸株式会社

www.ana.co.jp



JAPAN AIRLINES

明日の空へ、日本の翼

www.jal.co.jp

Happinet

株式会社ハピネット

<http://www.happinet.co.jp/>



ホテルマネージメントインターナショナル株式会社

<http://www.hmi-hotel.co.jp/>

挑戦と創造
CHALLENGE & INNOVATION



MITSUI & CO., LTD.

三井物産株式会社

www.mitsui.com/jp

総合商社の、つぎへ

三菱商事

<http://www.mitsubishicorp.com>

Connect to the Future

YAZAKI

矢崎総業株式会社

<http://www.yazaki-group.com/>